六地蔵塔

【所　在　地】南さつま市加世田武田 17924 － 3
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 29 年５月 24 日

この塔は「鴻巣馬場六地蔵三重石塔」であるが，塔身に六地蔵を刻み供養のために建てられているので，地元では六地蔵塔と呼ばれている。島津忠良が天文７（1538）年 12 月加世田別府城の攻略で討死した多数の敵味方戦没者の菩提を弔うために，天文９（1540）年３月に今泉寺の住職政誉上人を導師として供養を行った時に建てたもので，高さは 4.5m あり，当時は毎年，盆には領内の僧はもちろん，戦没者の遺族たち，重臣・将卒たちを集めておごそかに供養した。そのとき忠良は塔の前に進み，戦で亡くなった者の名を声高く呼び，その勇士たちをたたえたので領民たちはこの慈愛に感激して涙を流したという。また塔身には忠良の作歌である「一切の罪も消えなん弥陀地蔵，四十九の身の四十八願」が刻まれている。当時の供養塔は加世田川の洪水で流され，現在の塔は慶長２（1597）年，日新寺の住職泰円和尚が再建したものである。